

ベトナムで手足口病が流行

2011年3月13日 ProMED 情報(Bikyamasr)



保健省予防医学局によると、今年に入り2ヵ月間で、約12,400名の子供が手足口病(HFMD)にかかり、11名が死亡しました。昨年同期の7.5倍です。主にベトナム南部からの報告で、住民10万人当たり19名が感染したことになります。

このウイルスは、唾液、水疱液、便等を介して感染しますが、成人ではまれです。

昨年は国内で166名が死亡し、多くは子供たちです。例年に比べ死亡患者が10倍に増えたのは、病原性の強いウイルス株が原因でした。

〔ProMED 調整者〕

今回の流行は、昨年、南と東アジアで流行したエンテロウイルス71(EV71)によると思われますが、詳細は不明です。手足口病は、直接的な接触によりヒト-ヒト感染します。発病後1週間が最も感染力があります。しかし体内にウイルスが残っているため、症状が消失して数週間が経過しても感染する危険性があります。最近、エンテロウイルス71(EV71)による感染が、急性脳炎、急性弛緩麻痺といった重症な神経疾患や、心肺機能不全をしばしば引き起こす例が報告されています。